

Home visit survey on outpatient antibiotic use:

Assessing leftover medications and factors influencing appropriate use by community Pharmacists

(外来患者に対する抗菌薬使用に関する居宅訪問調査：残薬の評価及び薬局薬剤師による適正使用に影響を与える要因)

研究デザイン：横断的研究

(京都府薬剤師会および枚方市薬剤師会との共同研究)

対象期間・調査対象

2023年10月から2024年3月



方法



薬剤師が居宅を訪問し、同意取得後、手持ち薬剤の確認及びアンケート調査を実施

過去1年間の抗菌薬処方回数

2 回/年 [1-4]

中央値[四分位範囲]



患者インタビューによる再使用歴

27%

(10件)

うち、1件は家族による再使用

手持ち薬剤

19%

(7件)

うち、5件は予防使用目的
2件は投与中止

手持ち薬剤の有無に影響を及ぼす要因

要因	単変量 OR (95% CI)	p値	多変量 OR (95% CI)	p値
過去1年2回以上の抗菌薬処方	5.25 (0.56-49.09)	0.146	6.20 (0.47-82.06)	0.166
薬物治療の支援	0.43 (0.03-5.53)	0.516	0.11 (0.00-3.09)	0.194
家族の支援	1.50 (0.28-8.04)	0.636	1.04 (0.10-10.36)	0.976
看護師/介護士の支援	0.89 (0.17-4.70)	0.890	0.64 (0.09-4.60)	0.654
月2回以上の薬剤師訪問	0.05 (0.00-0.56)	0.015	0.02 (0.00-0.48)	0.015
抗菌薬の再使用歴	12.48 (1.87-83.47)	0.009	20.32 (1.78-231.33)	0.015

まとめ

これまでアンケート調査でしか結果が示されていなかった抗菌薬の使用実態がはじめて明らかになった。また、薬剤師が定期的に介入することが手持ち薬剤の減少に関連することが明らかとなり、薬局薬剤師による頻繁な介入は薬物療法管理を改善し、抗菌薬適正使用に向けた取り組みに貢献できる可能性が示唆される。

結果

年齢 (中央値)

81 歳



グループホーム 16%
介護付住宅 3%

薬剤師訪問回数

2 回/年 [2-4]

中央値[四分位範囲]

